

制振工学研究会の 20 年の歩み

小白井敏明 井上 茂
(会報編集委員会) (副会長)

The course of these 20 years of the Society of Damping Technology

Koshiroi Toshiaki Inoue Shigeru
(Editor for journal of SDT) (Vice-president of SDT)

本年、創立 20 周年を迎えるにあたり、制振工学研究会のこの 20 年の歩みを振り返りながら、新たな将来の方向性を探ることにしましょう。

研究会は、揺籃期、成長期を過ぎて、今は一つの成熟期を迎えていると言えます。研究会の活動成果“非拘束形の制振材料の JIS 規格”が制定される予定となっていること、来年には“制振工学ハンドブック”が発刊される見通しです。

Key word : 制振材料、制振工学、20 年の歩み、時田保夫、長松明男、岡村 宏、市場競争力、制振性能、振動減衰対策、制振工学ハンドブック、JIS 規格、研究会の方向性

1 . 20 年の歩み

まずはじめに、制振工学研究会が創立 20 周年を迎えられたことを、会員の皆様とともに喜びたいと思います。この間、会員の皆様にはボランティアで活動していただき、改めて御礼を申し上げます。それでは以下に、年表風に 20 年の歩みを振り返ってみましょう。

1988 年 (昭和 63 年) 2 月 制振材料懇話会世話人会が組織され、設立に向けた準備が行われた。

1988 年 6 月 17 日 設立総会準備会議が開催される。制振材料研究会発足が決定。

1988 年 7 月 1 日 制振材料研究会設立総会が開催される。

時田保夫 (当時 (財) 航空公害防止協会) を初代会長に選出。
当初計画では制振材料に関心がある生産者、使用者、研究者等が親しく懇談し、議論をする場として、制振材料懇話会としてはどうかとの世話人会の提案があったが、懇談のみならず、もっと積極的に調査・研究活動に取り組んでいくということになり、制振材料研究会となった。この時点の背景、課題に対する会員数、当初活動として次の内容でスタートした。

[当時の時代背景] 各種生産 / 建設機械、電気器具、コンピュータ等周辺機器の振動・騒音の低減が、製品の価値や市場競争力を決定する時代になりつつあった。このような振動・騒音を低減するために、これまでの